

2022年度下限予定利率および非継続基準の予定利率の見込みについて

対象	DB	DC	退職金	その他
内容	法令通知	財政運営	会計基準	その他

ポイント

- 2022年度のDB年金における継続基準の下限予定利率および非継続基準の予定利率の見込みについて、ご案内します。
- 下限予定利率の見込み : 年 0.0%
- 非継続基準の予定利率の見込み : 年 0.66%

下限予定利率の見込みについて

- ✓ 下限予定利率は10年国債の直近5年間の平均利回り、または10年国債の直近1年間の平均利回りのいずれか低い率を基準に設定されます。2021年度の下限予定利率は0.0%です。
- ✓ 通例では2022年3月を目途に、告示の改正が行われ、正式に下限予定利率が改正されることとなります。
- ✓ 2021年12月発行の10年国債の応募者利回りが決定したこと※1に伴い、2021年の5年平均利回りが+0.025%となり、上記の見込みとなりました。

※1 [「10年利付国債（第364回）の入札結果」](#)（財務省HP）

非継続基準の予定利率の見込みについて

- ✓ 非継続基準の予定利率は30年国債の直近5年間の平均利回りを勘案して設定されます。2021年度の予定利率は0.63%です。
- ✓ 通例では2022年3月を目途に、告示の改正が行われ、正式に予定利率が改正されることとなります。

発行元：三菱UFJ信託銀行 年金コンサルティング部

※本件に関するご照会は営業担当者までお願い致します。また本資料は、当社が公に入手可能な情報に基づき作成したものです。その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。施策の実行にあたっては、実際の会計処理・税務処理等につき、貴社顧問会計士・税理士・社会保険労務士等にご確認くださいようお願い申し上げます。本資料の著作権は三菱UFJ信託銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

- ✓ 2021年12月発行の30年国債の応募者利回りが決定したこと※2に伴い、直近5年間の平均利回りが0.656%となり、前頁の見込みとなりました。
- ✓ なお、2022年度の予定利率が0.66%の場合、一定の手続き※3を前提に予定利率を0.160%～1.160%の間で設定することも可能です。

※2 「30年利付国債（第72回）の入札結果」（財務省HP）

- ※3
- ・基金型DB年金においては、代議員会の議決
 - ・規約型DB年金においては、被保険者等の過半数で組織する労働組合の合意
(当該労働組合がない場合は被保険者等の過半数を代表する者の同意)

予定利率の設定方法と履歴

- ✓ 継続基準における下限予定利率は、10年国債の直近1年平均と5年平均のいずれか低い率を基準に設定されています。
- ✓ 非継続基準における予定利率は、30年国債の直近5年平均を勘案して設定されています。

年度	継続基準 (下限予定利率)	非継続基準
2018	0.0%	1.24% (0.74%～1.74%)
2019	0.0%	1.05% (0.55%～1.55%)
2020	▲0.1%	0.81% (0.31%～1.31%)
2021	0.0%	0.63% (0.13%～1.13%)
2022	0.0%	0.66% (0.16%～1.16%)

(注)2022年度の数値は見込みの値です。

以上

発行元：三菱UFJ信託銀行 年金コンサルティング部

※本件に関するご照会は営業担当者までお願い致します。また本資料は、当社が公に入手可能な情報に基づき作成したものです。その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。施策の実行にあたっては、実際の会計処理・税務処理等につき、貴社顧問会計士・税理士・社会保険労務士等にご確認くださいようお願い申し上げます。本資料の著作権は三菱UFJ信託銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。